

学力検査問題「国語」(その一)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

1 次の文章を読んで、問一～問七に答えよ。

今年は、実に多くの著名人が亡くなった。思いつくままに挙げれば、政治家だけでも、海部俊樹元首相、石原慎太郎元東京都知事、安倍晋三元首相、ゴルバチョフ元大統領。そしてエリザベス女王が、他界した。

どんなに時代が混乱しても、確実なことが一つある。それは私たちの誰もが、例外なく、いずれは死ぬ、という事実である。そしてつくづく、人類は不幸な存在だと思ふ。自分自身がいずれ消えてなくなることを、明確に理解しながら生きていかなければならないのだから。そんな生物は他にはないだろう。

弔いや宗教は、そんな死という「理不尽」を乗り越えるために生み出されたものであるとも考えられる。ネアンデルタール人が約5万年前に死者を埋葬していた証拠が見つかっている。以後人類は、いかなる地域、いかなる民族であれ、なんらかの形で死者を弔ってきた。死に対する振る舞いこそが、人類を他と分かつ、分水嶺なのだ。

さて、地域や時代によって異なるものの、歴史的に見れば、共同体が主体となって死を取り扱うことが多かった。例えばかつての日本の葬儀は、地域共同体が「葬式組」を組織して行うものであった。ここでは、遺族は「ケガレ」を広げぬよう、むしろ受動的な立場におかれる。またヨーロッパでは12世紀以降、教区教会の共同体が祭祀を執り行った。その後、近代化の流れのなかで、その役割は地方自治体が継承していく。むしろ、自分が死んだ後どうなるかは誰にも分からない。だが、自分の属する共同体が、敬意をもって、大切に死者を扱う姿を見ていれば、人は、死への本源的な不安を、和らげることができるとはならないか。

しかし近年の日本社会の弔いは、急速に簡素化が進んでいる。通夜や告別式などの儀式を行わない「直葬」も選択されるようになってきた。その理由としては、高齢者が増え寿命が延びたことで、葬儀に参列する人の数自体が減ったことや、高齢になると高額な葬儀費用を払うのが難しくなるため、といった指摘がある。これらの要因に加え、新型コロナで参列を控えるようになったことが追い打ちをかけているようだ。

だが、理由はそれだけだろうか。

「近代」にはさまざまな特徴があるが、死を隠蔽する方向に発展したということはよく指摘される。一つには、資本主義と死の相性が悪いからだろう。そもそもこのシステムは、経済のBの拡大を前提としている。だからCの身体を持つ私たちは、どこかで資本主義と辻褓が合わなくなるのだ。ちなみに環境問題も、有限の自然環境と、無限の資本主義の齟齬として捉えることは可能だろう。

また、資本主義は基本的に共同体を必要条件としない。企業は、利潤を生み出し拡大していくことを使命とする。だから多国籍企業は国境をやすやすと越え、国家と対立することも辞さない。一方で共同体は、過去から未来へと、構成員と領域を継承していくことにその本質がある。

平成期は、日本がグローバル化や新自由主義の波にもみくちゃにされた時代である。その結果、それまではある意味で地域共同体の役割を刈イタイしていた「会社共同体」も「改革」され、普通の機能集団に転換することが求められた。

それでも、もし他の「中間集団」がジュウゼンに機能していれば、新自由主義などの衝撃は小さかったかもしれない。

中間集団とは、国家と個人の間に位置して、両者を媒介するものだ。日本においては企業のほか、学校、労働組合、NPO、農協などの職業集団、宗教団体などがある。

例えば米国では、教会が毎日炊き出しを行い、バザーやチャリティーによって貧困層を支えている。しばしばアメリカ人は強い個人主義者と理解されることが多いように思う。だが、それは大企業の経営者やスポーツ選手など、成功者のイメージが過度にルーフしているためだろう。現実の米国社会は、教会などの中間集団がセフティーネットの役割を担うことで、維持されているのだ。

他方、日本では、企業が共同体的な役割も担いつつ、中間集団として機能してきた。だから企業がその任を放棄すると、社会が立ちゆかなくなる。そうなれば「最後の砦」は家族だろう。だが最近、格差社会の進展で、家族すらも頼りにできない人が増えている。「実家が太い」ユウフクな家庭に育った、の意」という言葉がよく使われるようになったのも、その一つの表れだろう。

「米国のような国」を指して改革を進めた結果、「個人の孤立」という点では、いつの間にか米国を追い越してしまったのではないか。

このような、共同体性が極端なまでにすり減った日本社会において、人類史にほとんど例のない、「葬儀の消滅」という事態が進行しているとするれば、恐るべきことだ。

(神里達博、『朝日新聞』二〇二二年九月二三日「『葬儀の消滅』まで進むのか」より)

学力検査問題「国語」(その二)

(2024 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①～⑤について、カタカナは漢字に直し、漢字には読みがなを付けよ。

問二 波線部A・Dの意味として、最も適当なものをア～オからそれぞれ選び、記号で記せ。

A ア 不可逆 イ 不本意 ウ 不首尾 エ 不条理 オ 不如意

D ア 一致 イ 食い違い ウ 関係 エ 噛み合わせ オ 悩み

問三 空欄B・Cに入る語句として、最も適当な語を文中から抜き出して記せ。

問四 傍線部(1) 「死に対する振る舞い」とあるが、それを説明している部分を二十字以内で書き抜け。

問五 傍線部(2) 「資本主義は基本的に共同体を必要条件としない」とあるが、なぜか。その理由を六十字以内で記せ。

問六 傍線部(3) 「企業がその任を放棄する」とあるが、「その任を放棄」した結果、企業はどのようなものになったか、文中から七字で書き抜け。

問七 傍線部(4) 「いつの間にか米国を追い越してしまった」とあるが、日本のどのような現状を述べているのか。五十字以内で説明せよ。

学力検査問題 「国語」(その三)

解答はすべて解答题用紙に記入せよ。

2 次の文章を読んで、問一～問六に答えよ。

六朝の世(二二二～六〇六)というのは、中国のながい歴史のなかでも、めずらしい時代だった。

かれらは、中原と黄河をすてた。文明をばぐくんだ地でありながら、北辺からきた騎馬民族たちに奪われ、すわりこまれてしまった。かれらは北狄という敵しがたい異民族どものやって来ない長江(揚子江)流域の稲作地帯にのがれ、故地を回復することを思わなかった。従って武を語らず、政治を野暮とし、四世紀ものながいあいだ、六つの小型王朝を興亡させ、そこで密室のような、あるいは壺中の天のような文化をうんだ。それが六朝の世である。

このような長江流域は、ながいあいだ、野蛮な地帯とされてきた。中流を楚とよび、下流を呉・越とよんで、コメという特異な(！)ものを食うひとびとの天地だった。春秋のころは荆蛮として卑生まれ、その後も十分に「文明化」されたとは思われていなかったが、六朝の世になり、中原のひとびとが民族移動してくることによって、ノウミツに漢民族の文化がしみこんだ。

むしろ、しみこみすぎたかもしれない。

文化というものに最高の価値がおかれたというあたり、史上類のない異様さだった。

政治は官僚でなく貴族が担当したものの、その貴族たちは政治を論ずることを無風流とし、清談とよばれる形而上学的な論争に熱中した。

「清談」については、とりあえず諸橋の辞典をひいて、語義だけの紹介にとどめたい。

清談 老荘を祖述し、世務を捨て俗を離れた清浄無為の空理空談をいふ。

清談派 六朝時代、流行した自然主義的・本能主義的思想家の一派。老荘思想を祖述して儒教を軽視し、道義を蹂躪して感情の奔逸にまかせ、悠悠自適した。

「清談」は魏・晋においてすでにさかんで、くだって六朝になると、墮落するほどにさかんになった。

墮落というのは、六朝の貴族(むろん皇帝をふくめる)全員にとって、「清談」がヒツスの教養になったことである。

かれらはサロンをつくったり、討議の場を設けたりして、ビールの泡のような「清談」をかわした。

かれらがもつとも高度なものとしたのは老荘の虚無思想で、ライフ・スタイルとしては無為をとった。さらには仏教をよろこび、これを知的娯楽とし、大いに援用して論を潤色した。シンポジウムにおいては互いに論難しあって、勝敗をきめ、しばしば夜を徹したりした。知的スポーツといっている。

文章も、質朴さをうしなつた。本来、**散文**は事物や意味を表現する道具だったのに、文体に、ロココの彫刻のように**カジョウな装飾**を加えた**四六駢儷体**というものはやらせた(わが国の空海はこれを得意とした)。さらには、

「風流」

という生き方のスタイルを政治以上に価値あるものとした。「清談」も風流であり、仏教理をもてあそぶことも、また皇帝や貴族が仏寺をつくることも、一種の風流だった。

六朝がほろんで、隋・唐という政治主義(儒教主義)の帝国が興り、政治が秀才官僚の手にゆだねられて、ようやく中国史は壺中の仙境から本来の大河に入る。

のち、唐の詩人杜牧(八〇三～五三)は江南の春にあそび、雨にけむる寺々を遠望して南朝(六朝)をしのぶのである。「千里鶯啼イテ、緑紅ニ映ズ。

水村山郭、酒旗ノ風」という。江南の春の水田風景を詠んで、これ以上の詞華があるだろうか。さらに、

南朝四百八十寺

多少ノ楼台、煙雨ノ中

とむすぶのは、叙景よりも六朝のはかなさを悼んでいるのである。儂さは春の雨に似ている。作者をわすれたが「三月ノ雨ハ六朝ノ涙ニ似タリ」という六朝回顧の詩句もあって、どうやら唐代では六朝は頼りなく、ものがなしとされていたらしい。

ところが古代日本にまつさきに入ってきた「中国文明」は、のちの隋・唐よりも、六朝文化だった。これは後世への文化遺産の因子として決定的だったのではないか。

当時、朝鮮半島の南の西方を占めていたのは、百済国(三四五～六六〇)だった。

百済は、中国文明を受容するにあたって高句麗がはばむ北の陸路をとらず、ごくろうにも海路をとった。はるかな長江下流まで航海して、その流域の六朝の文化を吸収しつづけたのである。

学力検査問題 「国語」(その四)

(2024 一般 III)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

仏教の輸入に熱心だったのは、百済の聖王(五三三〜五四)のときであった。

百済の聖王は六朝のうちの梁という小王朝に毛詩(詩経のこと)の博士や涅槃経(ねはん)の註釈書、さらには工匠および画師を送ってほしいと請うて容れられた。五四一年のことで、おもしろいことに、右から左にわたすように(欽明天皇十三年)、この王は日本に仏教や経論を送ってきている。

つまりは六朝文化が、百済を通じて日本へ洩れ(も)つづけたといっている。当時の日本は、長江の中下流にある六朝のことを「呉(くれ)」

とよんでいた。六朝の中国語——健康(南京)のことば——を「呉音(ごおん)とよび、漢籍も仏典もすべて呉音で音じた。

いまなお、ふるい時代に日本語のなかに入った漢字表記のことばは、呉音つまり六朝語で音ずるのである。

上代日本は、六朝がほろんでから、遣隋・遣唐使を派遣するようになり、使節団が長安に入って音が異なることにおどろき、トウワクした。あらたに導入した長安音は「漢音」とよばれ、いまなお呉漢両様が併用されている。

呉音という六朝の音は日本語のなかに豊富にのこっているが、数詞が呉音であることは暗示的である。

つまり、イチ・ニ・サンと呉音でよんで、漢音であるイツ・ジ・サンとはいわないのである。暦もそうである。正月元日は漢音ならセイゲツ・ゲンジツだが、呉音でなければ日本語にならない。

奈良・平安朝はすでに中国では唐の時代だし、遣唐使も派遣していたが、しかし六朝の遺風は消えず、貴族制は厳守され、とくに平安貴族の文化を特徴づける風流韻事は『清談』こそなければ、六朝の風がそのままつづいた。要するに、公家はたつぷりと六朝ふうだった。

(司馬遼太郎、『この国のかたち』より)

※問題作成に当たり、本文の漢字にふりがなを付け、あるいは省いた箇所がある。

※壺中の天 俗世間とかけ離れ別世界のこと

諸橋 諸橋轍次。漢学者で「大漢和辞典」を編さん。

問一 傍線部①〜⑤について、カタカナを漢字に直し、漢字には読みがなを記せ。

問二 傍線部(1)「中国のながい歴史のなかでも、めずらしい時代だった」について、このように言うのはなぜか。「〜時代だから」につながる形で、

文中から二十字以内で書き抜け。

問三 傍線部(2)「史上類のない異様さ」とあるが、このことを特徴づける具体的な内容を4つ、ア〜キから選び記号で記せ。

ア 官僚 イ 貴族 ウ 老荘思想 エ 儒教 オ 仏教 カ 風流 キ 政治主義

問四 傍線部(A)「無風流」、(B)「散文」について、i、iiに答えよ。

i 「無風流」の読みがなを記し、また同じ意味の語句を、文中から書き抜け。

ii 「散文」の対義語を漢字で記せ。

問五 傍線部(3)「中国史は壺中の仙境から本来の大河に入る」とあるが、どういうことか。分かりやすく四十字以内で説明せよ。

問六 傍線部(4)「古代日本にまさきに入ってきた『中国文明』は、のちの隋・唐よりも、六朝文化だった。これは後世への文化遺産の因子として決定的だった」とあるが、六朝文化が日本に与えた影響はどのようなものか。三十字以内で記せ。

学力検査問題「国語」(その五)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

3 次の文章を読んで、問一～問四に答えよ。

オノマトペは最近注目されている言葉ですが、その特殊性がよく話題となります。一般的な言葉とどこが違うのでしょうか。

一般的な言葉は、音と意味に **A** 的な対応関係はありません。ネコと言われたら、ニャアと鳴く、自由でマイペースな動物をイメージしますが、ネコという音とネコという動物の対応関係はたまたまであって、日本語を話す人が共通して理解できるのであれば、ネコという名前のかわりにイヌという名前でもよいわけです。

ところが、オノマトペの場合はそうはいきません。小さい子どもが「ニャアニャアがいる」と言えば、それはネコを指し、「ワンワンがいる」と言えば、それはイヌを指し、それが逆になることはありません。なぜなら、「ニャアニャア」「ワンワン」という名前は動物の鳴き声と結びついているからです。音と意味のあいだに **A** 的な結びつきがある。それが擬音語の特徴です。

では、**B** 語ではどうでしょうか。擬音語ほどは音と意味のあいだに **A** 的な結びつきがあるわけではありませんが、それでもイメージは明確に結びついています。

たとえば、「はらはら」「ぱらぱら」「ばらばら」を比較してみましょう。上から降ってきたものとして何が考えられますか。「はらはら」は **C**、「ぱらぱら」「ばらばら」は雨、「ばらばら」はあられではないでしょうか。

・ **C** がはらはら降ってきた。

・ 雨がぱらぱら降ってきた。

・ あられがばらばら降ってきた。

C は「風花」と呼ばれるように、舞い落ちるイメージがあります。ほかに「はらはら」と舞い落ちてきそうなのは桜の花びらでしょうか。雨は降りはじめは「ぱらぱら」と雨粒が落ちてきて、激しくなると「ざーざー」となります。あられは小さい粒なら「ばらばら」かもしれませんが、大きな粒は「ばらばら」がふさわしいでしょう。もし空から小判が降ってきたとしても(残念ながら)「ばらばら」となりそうです。

このように、粒さえ感じられないものは「はらはら」、小さい粒は「ばらばら」、大きい粒は「ばらばら」という印象と対応します。皮膚の痛みを表す「ひりひり」「ぴりぴり」「びりびり」はどうでしょうか。もともともヒョウソウ的で細かな感覚は「ひりひり」、ネコの爪のような鋭いもので引つかかれると「ぴりぴり」でしょうか。もともとも奥まで届く激しい痛みは「びりびり」で、スタンガンなどで感電したときのしびれるような痛みです。「ひりひり」「ぴりぴり」「びりびり」も痛みの激しさで異なり、この順で痛みが増していきます。

震えを表す「ふるふる」「ぶるぶる」「ぶるぶる」も考えてみましょう。「ふるふる」はもともとも小刻みに揺れる震えで、皿のうえのプリンが細かく振動しているときに使えます。「ぶるぶる」は小動物が震える様子などがイメージされます。ハムスターのほっぺやインコの尾っぽは「ぶるぶる」しそうです。「ぶるぶる」は震えがもともとも大きくそうで、大きな動物が寒さで震えていたり、小さな動物でも命の危険にさらされて激しく震えているときには「ぶるぶる」になります。「ふるふる」「ぶるぶる」「ぶるぶる」も震えの激しさで異なり、この順で震えが大きくなります。

食べ物をこぼす様子を表す「ほろほろ」「ぼろぼろ」「ぼろぼろ」も同じ傾向が見られそうです。「ほろほろ」であれば実際に食べ物がこぼれることはなく、皿のうえで、あるいは口のなかで抵抗感なくクズれていく様子を表しそうです。一方、「ぼろぼろ」「ぼろぼろ」は、いずれも食事をしている幼い子が食べ物をこぼす様子を表しますが、「ほろほろ」よりも「ぼろぼろ」のほうがこぼす様子の激しさが伝わります。

これらは八行の子音の一例ですが、清音の八行であれば程度や大きさが小さく、半濁音のバ行であれば中間で、濁音のバ行であれば大きいことがわかります。音と意味に一定の対応関係があるわけです。これがオノマトペの特殊性であり、専門的には音象徴(sound symbolism)と呼ばれます。

(石黒圭、『コミュニケーションは「副詞」で決まる』より)

学力検査問題「国語」(その六)

(2024 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①、②のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄A、Cに適語を入れよ。

問三 傍線部(1)「一般的な言葉とどこが違うのか」とあるが、オノマトペは一般的な言葉とどこが違うのか。それを説明している部分を文中から十五字以内で抜き出し、解答を完成させよ。

問四 傍線部(2)「同じ傾向」とは、どのようなことか。それを説明している箇所を文中から五十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を記せ。

解答用紙 [国語]

2024
般 III

中 考

1

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
①	A	B	敬	利	普	い
やわ	エ	無限	意	潤	通	衰
			を	を	の	う
②	D	C	も	生	機	、
			っ	み	能	。個
代替	イ	有限	て	出	集	人
			、	し	の	の
③			大	拡	共	狐
			切	大	同	立
十全			に	し	体	が
			死	へ	と	米
④			者	い	無	国
			を	く	関	よ
流布			扱	資	係	り
			う	本	だ	も
⑤			姿	主	係	深
				義	だ	ま
裕福				の	ら	っ
				シ	。継	た
				ス		と

2

問一	問二	問三	問四	問五	問六
①	時代だから。	イ	i	中	残
濃密		ウ	(読みがな)	国	日
	②	オ	ぶふうりゅう	の	の
必須		カ	野暮	歴	時
	史			代	い
③			が	に	る
			文	も	こ
過剰			化	に	と
			に	ど	。と
④			価	に	
			最	る	や
いた			値	価	数
			高	と	の
⑤			を	を	の
			価	お	発
当惑			韻文	く	音
			時	。と	に
			代		呉
			か		音
			ら		が
			政		多
			治		く

3

問一	問二	問三	問四
①	A	音	清
表層	必然	と	音
		意	の
②	B	味	ハ
		に	行
崩	擬態	一	く
		定	大
C	雪	の	き
		対	い
		応	こ
		関	と
		係	
		が	
		あ	
		る	
			ところ。